

報告

全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA) 事業  
「気候コミュニケーションに関する web 学習会」に参加しました

6月11日(木)10時~11時半、国立環境研究所の江守正多氏を講師とし、zoomを使った学習会が開かれ、全国の地域センターから138名が参加、私たち長野県・市センター職員も参加しました。「これからの気候コミュニケーションの方向性」について、内容の一部をご紹介します。

④ 気候変動「無関心」問題

人々が気候変動に関心がないのは、「(正しい情報を)知らないせい」「自分勝手なせい」だから、「知ってもらおう」「自分にも影響があることを知ってもらおう」ことで、「みんなが関心を持ってエコな生活を送る」ようになればいい——。これまで我々の多くはこんなふうに考えてきたと想像するが、実は、そうではないのではないのか？



会議室の壁にプロジェクターで PC 画面を投影、スピーカーも接続。

④ “負担意識”を変えていこう！

関心がないのは「“負担意識”があるせい」では？日本では、「気候変動対策は生活の質を落とさなければならぬもの」と思っている人が他の国々より多い。「自分はこれだけ便利さや楽しいことを我慢(=負担)しているのに、あなたは負担していない」と責められている感じがして、気候変動問題を考えるのを避けてしまうのではないのか。

ではどうするか？“負担意識”を変えていこう！エネルギーシステムの転換(再エネ化)など、**脱炭素は前向きな社会のアップデート(進化)**で、ポジティブなものだというメッセージが必要。

④ システムの変化を起こそう！

最終的にどうなったらいいのか。“本質的な関心を持つ人”を増やして、**システムの変化を起こそう！**レオナルド・ディカプリオやグレタ・トゥンベリさんのように、人生を懸けるほど気候変動問題が“刺さった”人がアクションを起こして、ムーブメントをつくる。グレタさんが飛行機に乗らないのは、みんなも乗るなということではなく、CO<sub>2</sub>を出さずに長距離移動するには社会のシステ

ムを変えなければ、というメッセージを出している。

④ エコでは止まらない…

気候変動にみんながうっすら興味を持ってエコな生活をして、地球温暖化は止まらないところまで来てしまっている。既存のインフラ(火力発電・自動車など)を従来同様の寿命と稼働率で使い続けるだけで、世界がめざす(産業革命前より)1.5℃

を超えるだけの CO<sub>2</sub> を排出してしまう可能性が高い、との論文が昨年出ている。

④ 卒エコしよう！

最後に思い切って一言、「卒エコしよう！」と。これからはエコの先を目指さなければならない。政治家・企業を動かすために、どういう発言、消費の選択、投票行動、意見表明をしなければいけないか——気候変動に関心を持った人をそういう方向に促していけるコミュニケーションが、本質的ではないかと思う。子どもにも、「親に『家の電気はどこから買ってる？その電気をつくるとき CO<sub>2</sub> は出てる？選挙はだれに投票する？その人は温暖化を止めてくれる？』と訊いてみて」と、そのスケールで話さなければならない。

気候非常事態宣言・2050 ゼロカーボンを出している自治体と、地域センターと一緒に具体策を考えたい。地域の知恵とアクションを結集していく——地域センターはそこに力を発揮してほしい。

〈感想〉「卒エコ」、正直、衝撃でした！今後何をどのように伝えていけばいいのか？まず自分たちが変わらなければ、との思いを強くしました。

うちの健康診断しませんか？

Step① 自己診断

まずは「簡単チェック！ワンポイントアドバイスツール」で web の簡易診断。  
<https://www.uchieco-shindan.jp>



Step② うちエコ診断

さらにくわしい診断を希望する方は、うちエコ診断士による「うちエコ診断」の受診を。お問い合わせは各センター(県・市)まで。